



令和年度 卒業証書授与式 式辞

校長 中山 哲也

春の訪れを告げる風のような雨の中、通いながれた道のそこかしこに梅の花もさかりを迎えています。時折吹くまだ冷たい早春の風に香りをのせ、控えめに、しかし凜として気高く咲く梅の花。荒々しい強さではなく、己を律する強さを感じさせる梅の花に、卒業した後も背筋をただし、さわやかな香りを残しつつ未来へ羽ばたく君たち39期生342名の皆さんの姿が重なります。卒業おめでとう。

今日のおき日あたり、これまで子どもたちの成長を支えてこられた保護者の皆さま、今日の卒業式は皆さまの卒業式でもあります。子どもたちの記憶にないような小さな時から、熱を出した時の寝ずの看病、ケガをした時には病院を探しまわり、子どもがつかない思いをした時はともに涙し、嬉しいときには喜びでやはり涙を流してこられたことと思います。子どもたちは、こんなに大きく立派に成長されました。これまでのご苦労とご努力に敬意を表するとともに、大切なお子さまを預らせていただいた芥川高校の教育に対しご理解とご協力を賜りましたこと心より感謝申し上げます。

さて39期生の皆さん、あらためて卒業おめでとうございませう。今、皆さんの脳裏にはどのような思い出が浮かんでいられるでしょうか。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大という未曾有の事態の中、抑圧された一年であったと言えます。しかし、芥川高校で過ごした三年間、皆さんは、そのいずれのシーンにおいても見事なまでに輝いていたのではないのでしょうか。昨日、拝見したアルバムは皆さんの笑顔であふれていました。

そんな皆さんとも別れの時が来りました。私から皆さんに最後のお話をします。2020年に開催が予定されていたオリンピックは残念ながら延期されていますが、遡ること56年前、1940年に東京オリンピックの開権を返上し参戦した第二次世界大戦で日本は

敗戦したものの、その後急速な復興を遂げました。その日本が再び国際社会に復帰する象徴となる大会が、1964年の東京オリンピックだったのです。

様々な競技の中、10月21日に行われたマラソンでは、前回のローマ大会を裸足で走り優勝した「はだしの英雄」エチオピアのアベベ・ビキラが史上初の二大会連続の金メダルを獲得しました。競技後のインタビューで「あなたにとつてのライバルは誰でしたか?」という問いに対して、彼は「ライバルは67人のランナーではなく私自身です。私はその戦いに勝つたのです。」と述べています。

私たち人間は、ややもすれば楽な方に流されてしまいます。まわりの環境や状況のせいになり、他と比較して嘆くだけで終わってしまいがちです。そんな時、外に何かを求めがちな自分の意識を自分自身の内側に向けていることができるのか。人それぞれの特性に違いがあるにも関わらず、比較することに時間を費やすことの不条理に気づくことができるのか。アベベの言葉は、どんな環境や状況においてもひたすら自分と向き合っていくこと、ライバルではなく自分を超越する「チャレンジャー」をしていくことの大切さを伝えてくれます。

諦めようとする最強の敵も、頑張ろうとする最強の味方も自分自身の心の中にあるのです。最後に、私の好きな詩を紹介いたします。

『自分の一歩』

宮澤章二

いまわたしの踏みしめる一歩は
だれか他の人の一歩ではない
私の足が地上に刻む一歩は
いつでもわたし自身の一歩なのだ
他の人より一歩先を歩くからといって
他の人より優れているとは限らない
他の人より一歩後を歩くからといって
他の人より劣っているとは限らない
自分の目標を定めて、歩きたのだから
自分の一歩をしっかりと信じて進もう
その決意が最後まで歩く力を生む
出発点には「人生」など、まだない
到着点にこそ、わが「人生」はあるのだ
歩きつづけ生きぬいた尊い証明として

いろいろとお話をしてきましたが、健康には十分気をつけてください。そして、これまで支えてくださったご家族をはじめ仲間への感謝の気持ちを胸に刻み、内なる敵を味方にかえながら、あなたの人生の一歩を踏み出してください。

る敵を味方にかえながら、あなたの人生の一歩を踏み出してください。

第39回 卒業証書授与式 第3学年主任

3月2日、39期生の卒業式を行いました。感染症対策のため、座席間の距離をとり、保護者をお一人ずつとお願いし、従来の卒業式より時間を短縮しての開催となりました。

卒業生たちは、静粛に落ち着いた振る舞いで、式の意図を体現しました。答辞では、コロナに翻弄された最終学年の体験と当たり前の日常・一生モノの友人への思いを語り、式の終盤ではマスクを着けたままで、心を込めて「卒業の歌」を歌ってくれました。答辞の話題や選曲、代表生徒の選出などは生徒の委員会から意見を聞きながら進めました。例年よりも大変だった会場準備や片づけには、1、2年生の生徒が大活躍してくれました。

今年度は文化祭・体育祭に保護者の来校をお断りしたため、保護者の皆様とともに卒業式を開催でき、卒業生の凛々しい姿をご覧いただくことを大変うれしく思います。と、穏やかな卒業式だったのですが、まさかの春の大嵐!換気の窓から暴風雨の音が響く、最後まで記憶に残る卒業式となりました。翌日の青空のように、卒業生の前途が晴れやかであるようにと、切に願っています。



PTA 会長



3年生のみなさん、ご卒業おめでとうございませう。高校生活最後の年に新型コロナウイルスの影響により、学校が休校になったり、学校行事が変更になったりと、本当に大変な1年だったと思います。でもその分、改めて人とのつながりや家族の大切さを再確認できたのではないのでしょうか?春からそれぞれ新しい環境に立ち向かって行くこととなりますが、これからも色々な困難が待ち受けていると思います。その時はこの芥川高校で学んできた経験や、みなさんと繋がっている方達の助けを借りて前に進んでいくてください。みなさんのこれからの活躍を楽しみにしています。

最後になりましたが、保護者のみなさま、お子さまのご卒業、心からお祝い申し上げます。先生方におかれましては、日々子どもたちと向き合い指導して頂き、保護者を代表して感謝申し上げます。次年度も引き続き芥川高校の子どもたちの学校生活をより良くするために、保護者と先生方と協力し、PTA活動をおこなっていきたくて思っておりますので今後ともPTA活動にご理解とご協力よろしくお願いいたします。

卒業生から母校への卒業記念品

39期生から母校におくる卒業記念品として、テント3張を寄贈していただきました。行事等で大切に使用させていただきます。ありがとうございました。